

令和3年度 発達障害児者地域生活支援モデル事業報告

1. こころとからだのワークショップ
2. 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり
～情報共有ツールを活用した仕組み～

令和4年3月4日

大阪市福祉局

1. こころとからだのワークショップ

1 グループワーク+からだを動かす体験

【目的】

- 1 発達障がいがある成人期の方たちが、小グループで感情やそのコントロール方法、感情とからだのつながり等についてともに学び、からだを動かすことによるリラックス効果や楽しさを体験する。
- 2 自分の得意・不得意について話し合う機会を設定することにより、就労や安定的な社会生活を送るために大切な「健康維持」や「感情のコントロール」、「自己理解」への気づきと日常での工夫実施のきっかけとすることを目指す。
- 3 安心できるグループの中で対人距離から恋愛、性について語り学びあう機会を設定する。

【実施時期】

令和3年10月～令和4年3月
連続6回(月1回実施)

【参加者】

当事者 7名 (男性5名、女性2名
平均年齢 30.1歳)
支援者 5名

支援者参加
により当事者
活動型支援
手法を広める

【からだを動かす体験】

深呼吸、ストレッチ、軽スポーツなど

【グループワーク】

	内 容
1回目	自己紹介。感情学習(よろこび・うれしい)、きっかけカード・楽しいことの本・コーピンググッズの紹介・体験、好きなこと探し
2日目	感情学習(うれしい・リラックスした)(どんな時に・からだの状態)、脳内ホルモン(人を好きになる、を含む)、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験
3回目	うれしいこと日記、感情学習(不安・怒り)(どんな時に・からだの状態)、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験
4回目	うれしいこと日記、きっかけカードを使った感想、不安を減らすのに役立つこと、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験、人と人との関係について(親しさレベルの確認)・対人距離ワーク
5回目 (予定)	うれしいこと日記、感情修復ツールを使ってみた感想、好きな人ができたとき・職場の人間関係ワーク、コーピンググッズの紹介・体験
6回目 (予定)	うれしいこと日記、感情修復ツール(ツールボックス)を使ってみた感想、各自の特徴・ストレス解消方法のまとめ、コーピンググッズの紹介・体験

1. こころとからだのワークショップ

2 成人支援者向け講座「発達障がいのある方のセクシャリティ支援」の開催

【目的】

発達障がいがある成人期の方は思春期に不登校を経験して性教育を受ける機会を逸しているケース、不適切な情報を入力し誤解しているケース、知らないうちに被害者になっているケース、性行動はいけないことと思い込んでいるケースが少なくない。そのため、当事者支援の一助として、支援機関の支援者を対象にセクシャリティ支援のワークショップを開催し、具体的に性の問題に向き合いセクシャリティ支援を実践していただける支援機関が増えることを目指す。

【参加者】

大阪市内にある成人支援事業所支援者
参加者数：午前の部 33名、午後の部 18名

【実施日】

令和4年2月16日(水) 午前の部、午後の部の2回
(1回120分)

【内容】

- ☆COVID-19感染拡大のため、京都在住の講師とオンラインで繋ぎ、パブリック・ビュー会場にて感染予防対策をした上で研修会を実施した。
- ・「性は人権である」ことの確認と「性教育」の現状
- ・「セクシャリティ」「コミュニケーション」について
- ・ロールプレイとグループワーク
疑似体験：アウトプット、断る練習など
～各事業所で実施できるように



写真：ロールプレイのデモ
(さいころゲーム～誘われても断る練習など)

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

取組み内容

【1】（平成29年度）：自治体調査の実施

【調査先】 ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

【2】（平成30年度）：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先】 ◆本人、保護者、保育所・幼稚園（公立・私立）、公立学校（小・中・高）、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

【3】（令和元・2年度）：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

【令和元年度】 ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

【令和2年度】 ◆情報共有ツール「就学前編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
◆就学時以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。 ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

【4】（令和3年度）：青年成人期向け情報共有ツールを活用した支援の仕組みづくりの検討

◆情報共有ツール「中学校入学編」、「高校入学編」、「大学入学編」、「就職編」等就学時以降の各ライフステージ毎に有用なツールを試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。また試用の中で出た意見より、全情報共有ツール共通のマニュアルを作成。

◆各情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「就学前編」の作成 ～

令和元年に作成した情報共有ツール「就学前編」試用版を、実際に使う人にとって使いやすいものになっているか検証するため、保護者に試用してもらい、意見や感想を聴取。支援者・関係機関等からも意見を聴取し、より使いやすいものに改善を図ったものを、エルムおおさかのホームページにアップロードした。情報共有ツール「就学前編」について、一定の完成はしたが、よりよい情報共有ツールとして保護者に活用してもらうため、今後も引き続き意見の聴取を行い、順次改善を図っていく。

試用者	対象児童	試用状況		
		配付者数	試用者数	実施時期
ペアレント・トレーニング参加保護者	小学校1～4年生	5人	3人	令和2年8月
発達障がい児専門療育機関利用者、 障がい児通所サービス利用者の保護者	年長児	20人	2人	令和2年11月
		26人	2人 (11)	令和3年1～2月

主な意見

- ・プロフィールがそのまま個別教育支援計画に使えるので良い。
- ・情報共有ツールを使って、保護者と先生がやりとりして一緒に子どもについて考えていけることが重要であると思う。
- ・この情報ツールは、基本的に通常学級で過ごす、またはグレーゾーンの子どもたち対象に作成されているというイメージがある。
- ・普及啓発について：職員（教員・保育士）研修の中で注意喚起する機会があった方がよいと思う。
- ・HPにアップする際、ツールとともに使い方の例が載っているマニュアルが必要であると思う。
- ・保護者の方たちには、わからなければ保育所園・幼稚園の先生にきいて一緒に作ることをすすめると良いと思う。
- ・保育所園・幼稚園の先生方に周知して、心配で相談してきた、もしくはグレーゾーンのお子さんや特徴があるがまだ気づいていない保護者の方に理解していただくツールに使っていただくとよいと思う。
- ・保育所園の先生に、どんなことを情報提供するとよいか、記入例の中でお知らせしておいた方がよいと思う。
- ・保育所園の先生や療育機関のコメント欄...いつ記載したのか日付を書く欄があったほうが良い。
- ・学校での過剰適応でしんどくなり不登校に至りそうなケースなどの場合、事前に先生に情報提供できる箇所があると良いと思う。
- ・医療情報を記入するところに、「てんかん」の有無を入れた方がよいと思う。
- ・「就学前編」の対象：就学前から（年長）ときっちり記載されているほうがわかりやすい。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「高校入学編」、「大学入学編」の作成・試用 ～

思春期～成人期においても、スムーズに情報共有が行えるよう、情報共有ツール「高校入学編」、「大学入学編」を作成、使用する上での意見や感想を把握し、より使いやすいものへ改善するために、保護者や支援者、当事者に試用してもらい、試用後にアンケートを実施するとともに、その効果を測定する。

(令和3年1月末現在)

高校入学編の試用状況

【試用者】

エルムおおさか 個別相談ケース 保護者、大阪市内 親の会会員 保護者 等

【主な意見】

- ・書式にそって書き込むので記入しやすかった。担任教諭との懇談時、すでに口頭で伝えていた内容を確認するために使用した。
- ・感覚過敏で困っているケースが多いので、明記した項目を作してほしい。
- ・本人が自己認識しているケースもあるので、「本人記入(私は...)」「保護者記入」の両方の書式が必要と思われる。

大学入学編の試用状況

【試用者】

大学 支援センター(臨床心理士・社会福祉士・特別支援教育士・公認心理士 等)、通学中の当事者 等

【主な意見】

- ・困り事などの対応方法を明確にしたほうがよい。
- ・大学の誰が記入することを想定されているのかわかりにくい。
- ・何を書けばよいのかわかるように、具体的な指示を同じ紙に書いてほしい。
- ・量が多いのでもう少し少なくしてほしい。
- ・自由記述の項目が多い、チェック項目のほうがわかりやすい。

～ 情報共有ツール「中学入学編」、「就職編」、全情報共有ツール共通のマニュアルの作成 ～

これまでに作成した情報共有ツールに加えて「中学校入学編」「就職前編」の試用版の作成し、保護者や支援者、当事者に試用してもらい、意見や感想を聴取するとともに、よりよい情報共有ツールの作成を目指す。

また、これまで各情報共有ツールの試用の際に、記入方法などの方法を示すマニュアルの作成の必要があるとの意見が複数出ていることから、すべての情報共有ツールに共通する記入方法や使い方などをまとめたマニュアル作成を行う。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 各種情報共有ツールの普及啓発 ～

作成した情報共有ツールを広く市内の関係機関、保護者に知ってもらうために、エルムおおさかのホームページに情報共有ツールをアップロードした。

併せて情報共有ツールの使用が必要となる保護者への普及啓発活動として、ペアレント・トレーニング講座への参加者などに周知し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

普及啓発の実施状況（令和3年度上半期、エルムおおさか主催講座の中で）

講座名等	日時	対象者	内容
ティーチャーズ・トレーニング連続講座 A・B	令和3年6月～	保育所保育士	連続講座の途中 または集合講座 の最後に紹介・ 配布
ペアレント・トレーニング連続講座 幼児	令和3年9月～	保護者	
ちょっと気になる子どもたちのからだ講座	令和3年9月14日	保護者・支援者	
【保護者対象】 第1回発達障がいの理解と支援(プラス)	令和3年9月24日	保護者	
幼児期ソーシャルスキル講座(3回連続)	令和3年9月～	保護者・支援者	